

## 先輩からのメッセージ — 一緒に看護を!! —



5階2病棟 医療介護病棟勤務  
大野 結喜 さん

Q: 愛全病院を選んだ理由

もともと子どもに携わる仕事をしたかったのですが叶わず、冬になっても就職が決まりませんでした。ここに務めている友人から話を聞いて、つらいという話は一度も聞いたことがなく、私も大丈夫じゃないかと思いました。入職してみると、新人教育が充実していて、研修の時間もたっぷりあり、困った時もプリセプターだけでなく、先輩たちにも支えられました。

Q: 仕事をしていて嬉しかったこと

患者さんに「あなたが担当でよかった」と言ってもらえたことです。新人の時も2年目も未だ、知識・技術が未熟ですが、できるだけ患者さんの話を聴き、寄り添っていくことが必要だと思います。私たちには不明な言動であっても患者さんにとっては必至な訴えなので、きちんと聞くことを心がけることで、信頼関係にもつながり、今日はあなたでよかったわと言われ嬉しかったです。

心に残っているケアは、「あいちゃんケア発表会」で発表した患者さんです。ケアを受け入れていただくことが難しかったのですが、ただ観察や聞くだけでなく、自分の関りの何が良くて、何が悪かったのかケアの振り返りをする必要があると思いました。また、コミュニケーションを通して患者さんを理解し、ケアにつなげていくことが大切であることを学ばせてもらいました。



Q: 大切にしている看護は?

知識・技術もまだ浅いので、それを丁寧にやっていくことを心掛けていますが、話を聴くこと、訴えを聴くことを大切にしています。忙しくてお待たせすることがありますが、待たせていることを自覚して、待たせた時は「ごめんなさい」と伝えています。同じ訴えを繰り返し言われる患者さんには、その都度受け止め、対応していくことを大切にしています。

Q: 就職先を考えている方へ

希望がかなわなくとも、決まったところが縁だと思って一生懸命頑張っていけばいいと思います。終末期や看取りを経験することができ良かったと思っています。すべて自分の糧になります。

Q: 大変だったことは

新人のうちは、出来ないこと、わからないことがわからない為、どこから勉強しようか、どう聞いていこうかと手探りで大変でした。私は周りに頼ることが苦手で頼れませんでした。自分がどう伝えたらいいのか、何に困ってどう助けを求めたらいいのか困りました。教育担当科長に何度も話を聞いてもらう中で、自分がどうしたらいいかが見えてきました。先輩たちにも関り方を伝えてくれて少しずつ歩み寄ることができました。

Q: こんなふう乗り越えた